第七回奈良教育大学運営諮問会議について

広 報 室

四年七月一日 (月) 開催の第六回運営諮問会議 本学大会議室において開催されました。 に引き続いて、平成十五年二月六日(木)午後 第七回奈良教育大学運営諮問会議は、平成十

討中の「奈良教育大学の中期目標・中期計画 (案) について報告し、審議いただきました。 人への移行が想定されることから、大学内で検 今回は、特に、平成十六年度から国立大学法

原金一(株)住友生命総合研究所取締役社長 学長、藤田康子奈良県立北大和高等学校長、前 順次郎国際高等研究所長、丹羽雅子奈良女子大 会議には、内田弘保日本育英会理事長、金森

等が出席しました。 事務局長ほか各種委員会委員長 長(教学担当)、附属図書館長 学長、副学長(総務担当)、副学 宮城教育大学長の委員八名(一 県教育委員会教育長、横須賀薫 業団副理事長、矢和多忠一奈良 南浦純一郎(財)奈良県文化事 名欠席) が出席し、本学からは、

ら「国立大学法人化への奈良教 法人 (仮称) の仕組みの概要」 [国 続いて事務局長から「国立大学 育大学のこれまでの取組」につ 立大学の法人化のスケジュール について、副学長(総務担当)か 会議では、学長のあいさつに

> に説明の後、活発なご議論をいただきました。 理念、教育目標、研究目標及び大学運営を中心 に基づいて、教員養成単科大学としての本学の である「奈良教育大学の中期目標・中期計画(案)」 館長及び副学長(総務担当)から、本日の議題 いて説明が行われました。 各委員からの主なご意見・ご指摘は次のとお 続いて、学長、副学長(教学担当)、附属図書

総合教育課程を置くことの理念がはっきりしてい

ないのではないか。

ようにしなければ 外から見てわかる ならない。

・これだけの中期目 かという視点も必 間で達成できるの 標を掲げて、六年 ので検討願いたい ふれられていない との連携について 高等学校と大学

・「リーダシップを 発揮できる教員

えていただきたい。 あり、具体的にはどう養成するのかを考 の養成」とあるが、これは重要なことで

> ・国際交流については、特に「アジア」にこだわ らず、欧米諸国も含めて世界中を対象にされ てはどうか。

・学校経営等の教育マネジメント分野の充実に向 けての取組みに期待したい。

連携も必要ではないか。 奈良の歴史・文化の点では、神社や寺院等との

・教員と事務職員が一体となった大学経営のあり方 を検討いただきたい。

・財務では、自己収入をどう確保するかについて具 体性に欠けているのではないか。

・中期計画には、例えば、教員就職率をかかげるか どうか検討いただきたい。数値目標を設定するこ とで入試や教育内容もはっきりしてくる。

ボランティア活動の取組みを始められたようであ るが、単位化についても検討していただきたい。

総合的な学習の時間に対応して、これからの 小学校教員にも英会話が必要となるのではな

大学院在学中の現職教員に聞くと、以前の大学 て改革を進めていただきたい。 ことだ。さらに改善が必要な点は生の声を生かし から非常に変わった、よく頑張っておられる、との

ご検討いただくこととなりました。 問会議は五月に開催を予定しており、 目標・中期計画(案)」に生かしながら引き続き もって閉会とされました。次回の第八回運営諮 学内での検討を進めていきたいとのあいさつを 最後に学長より、これらを参考にして、「中期 引き続き

にも掲載しております ※これまでの審議内容は、本学ホームページ (http://www.nara-edu.ac.jp/home-jp.htm)